

アレルギーの 病 気

アレルギーの病気にはさまざまなものがあります。そのうち子どもに多いのがアトピー性皮膚炎と気管支喘息など。

それらは別なものではありません。アトピー性皮膚炎の子が喘息になり、いずれ花粉症になったりしていくなど、関連があるものです。

年齢による特徴を知つていただくことで、アレルギーの病気への対処がしやすくなることでしょう。



アレルギー体質と環境

アレルギーの病気は、もともと持っている「体質」に加えて、外から体に入り込んでくる「異物」が関係することでおきます。

アレルギー病が「現代病」と呼ばれるように、近年、非常に増えています。花粉症はその代表です。スギの花粉は大昔からあるわけですが、それに対する体の異常な反応が病気として問題になったのは、わずか数十年前からです。

どんな人もアレルギーをおこしうる体質も持っています。その程度が強いか弱いかの違いはあります。現代の食事や生活は体にとっては自然とはかけはなれたものになってきました。それが「アレルギー体質」を強くしているのかもしれません。

そして、異物となる外界の物質は、環境汚染とともに大幅に増大し、ますます病状を悪化させています。

人間がアレルギー病を克服できる日が訪れるることは、ずいぶん先のことになります。



●多くの症状・病気

アレルギーがあると、いろいろな病気を引き起します。子どもではアトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎などはその代表です。下痢や嘔吐といった胃腸の病気などもあります。

子どもは日々成長していますが、アレルギーの病気が強いと、成長や発育・発達に問題をおこすこともあります。

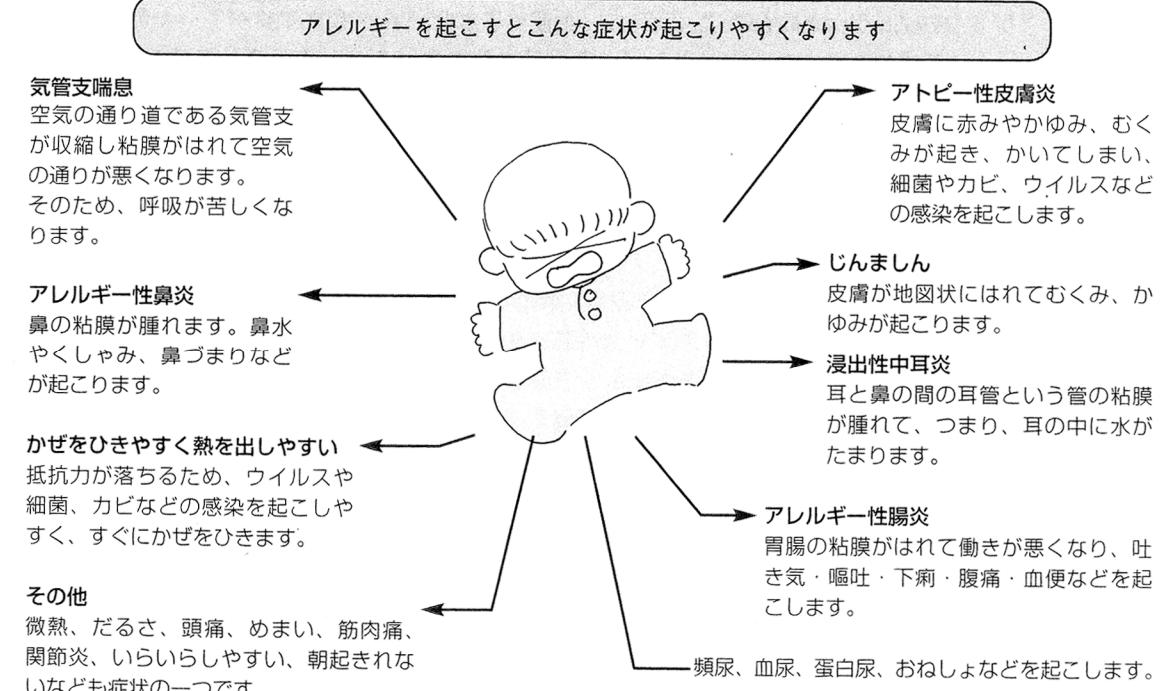
またアレルギーがあると、風邪を引きやすくなったり、こじれたりしやすいなど、二次的な問題がおきることもあります。心理的な問題もおきてくるかもしれません。

●始まりは食物アレルギー

こんなアレルギーの病気も、一度におきるわけではありません。年齢によってかかりやすい病気もありますし、原因になる物質も違ってきます。

もっと多いのは、0歳で食物アレルギーからアトピー性皮膚炎になることです。その後1～2歳くらいでダニに対してアレルギーをもち気管支喘息になり、さらに花粉症にもなっていきます。

これらのアレルギーの病気に対して、その時々で



適切に対応することで、それ以上こじれていかないで済むようなことが多いです。逆に、きちんと治していかないと、あとでほかのアレルギーの病気がでてくることにもなりかねません。

いろんなアレルギーの病気の最初は、赤ちゃんの食物アレルギーということが多いので、離乳食の初期は丁寧に進めていく必要があります。

